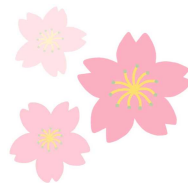


さくら



令和7年6月9日(月)

丁寧な説明



数ヶ月前に歯が痛くなりました。1週間ほどで痛みが治まり、歯科へは行きませんでした。実際のところは、歯科受診が怖くて行かなかったというのが事実です。ところが、先日より奥歯に強い痛みが。我慢できず、意を決して歯科へ駆け込みました。

これまでも同様のことが何度かあり、歯科に行くといつも手遅れ。神経を取ったり抜歯したりと、痛みが伴う、私にとっては恐怖の治療をせざるを得ない経験が何度かありました。やはり、今回もそうなってし

まいりました。

ドクターは悪くなった歯を残そうをしてくれたのですが、歯に亀裂が入っていることが判明。結局抜歯となりました。

抜歯と聞いて、恐怖のあまり卒倒しそうになる私。緊張のあまり診察台の上では「まな板の上の鯉」状態。そんな私の緊張を感じてか、ドクターは抜歯で予想される痛み、術後の注意点など、とても丁寧に説明してくださいました。また抜歯中も「痛かったら我慢しないで手をあげてください」と声をかけてくださり、不安は徐々に安心感へと変わりました。かくして、無事に抜歯していただきました。

今回の受診で強く感じたことがありました。ドクターが素人にも分かるように、私の歯のレントゲン画面や抜歯する歯の写真を使いながら、私のあらゆる疑問や不安を先回りし説明してくれたことです。そのおかげで、これからどのような治療をするのか理解し、安心して治療を受けることができました。また、質問がないか尋ねるなど、一方的な説明ではなく、私との対話を重視しているのが伝わってきました。

この経験を通して、改めて「丁寧な説明」の大切さを実感しました。それは単なる情報伝達ではなく、信頼関係を築き、相手の不安を取り除き安心感を与える行為です。患者が不安を抱えている状況においては、丁寧な説明は治療そのものと同じくらい重要だと感じました。日常生活において、他者に安心感を届け、より良い関係を築くため、丁寧な説明を心がけていきます。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

